

基本政策専門調査会長 殿

1 1月24日及び12月21日の総合科学技術会議基本政策専門調査会にはいずれも出席する事が出来ません。従いまして「投資目標」「成果目標」に関して配布されました予備資料に基づき、私の意見を以下に述べさせていただきます。

「投資目標」

1ページの「主な論点」を読みますと、整理された論点はそれぞれ妥当性があるところであります。私も戦略的重点化による選択と集中、徹底的なシステム改革による競争的環境の醸成、及び成果目標の設定が必要であると考えます。すなわち、上記の施策を積極的に進める事は極めて重要であり、かつそのためには総合科学技術会議の司令塔の機能の強化の基に戦略的重点化とシステム改革の徹底が図られるべきであると考えます。しかしこの事と投資目標から成果目標へ転換する事とは別個のことであると思います。

今回の特に重要な課題である「物から人へ」政策を進め、優秀な人材を引きつけて日本の科学技術を担う人々を動かして行くためには国が科学技術を支援するという姿勢を明確に示す必要があり、また諸外国における科学技術関係予算のGDP比やその伸び率を勘案すると投資目標を設定する事は重要であると考えます。

「成果目標」

大目標2の「科学技術の限界突破」に関して種々の理工系の施策が示されておりますが、この中にライフサイエンス関係が無く、ライフサイエンスの問題は大目標5の「生涯はつらつ生活」の方に全て含められた提案となっております。しかし今後5年の期間の間に「こころ」の理解が飛躍的に進むと考えます。この問題は大目標5の脳科学の項目の中に含まれておりますが、こころの問題は単に大目標5にとどまらず、生命科学から人文科学、社会科学、情報科学を含む、全ての科学に関わる問題であり、また欧米では21世紀は「こころの研究の時代」として大きな推進がなされているところであります。従って例えば「ヒトのこころとこころの伝達についての基本を明らかにする」という新たな成果目標を入れてはどうかと思います。

中西 重忠